

小・中・高を見据えた主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

元玉川大学客員教授 小林弘和

I 公民的分野と高校「公共」の新設——中・高の効果的な社会科指導

○はじめに

最近、「〇〇中等学校」等の名称の学校名を目にすることが多い。これは、平成10（1998）年に学校教育法が改正され、中学校を前期中等教育、高等学校を後期中等教育としていた従来の教育の課程を調整して、中学校3年間、高等学校3年間の合計6年間の中等教育に一貫性を持たせる体系的な教育システムを可能にしたためである。戦後の小学校6年間、中学校の3年間、高等学校の3年間、大学の4年間の計16年間の階段式・単線型の教育システムに大きな変革をもたらした。

一方、平成30（2018）年に高等学校学習指導要領が改訂された。従来は「現代社会」「倫理」「政治・経済」の中から、「現代社会」、または「倫理」「政治・経済」の中からの選択必修であったが、今回の改訂で「現代社会」がなくなり、代わりに「公共」が新設された。「公共」は必修科目となり、「倫理」「政治・経済」の中から一つが選択必修科目となった。

中学校で公民的分野の指導する際に、高校での必修科目となった「公共」の指導内容や指導方法などを念頭において指導することは、極めて意義深いものがある。

中学校は義務教育のため、生徒の居住する地方自治体が設置するが、高等学校は生徒の任意の進学先になる。私立高校への進学や遠隔の自治体や都道府県立の高校への進学もある。

さらに、中学と高校の設置義務者も異なり、教員の人事権も異なることから、中学校と高校の社会科教師が席を一つにして社会科の指導内容や指導方法などの研修に当たることは、一部の私立や国立学校以外は皆無であった。

その意味では、中学校での指導に際し、今回の高等学校で必修となった「公共」の指導内容をしっかり理解して指導にあたることは、極めて意義深いものと言える。

本稿は、この中高一貫教育の広がり、高等学校学習指導要領の改訂に伴い新設された「公共」のねらいに視点を当て、中学校の公民的分野の学習指導

の充実にも少しも寄与できることを目指したものである。特に、選挙権年齢や成年年齢の引き下げなど、高校生にとって政治や社会は一層身近な存在となり、自ら主体的にかつ積極的に国家や社会に参画する環境が整いつつある。

このような中で「公共」は、人間と社会の在り方について、中学校までの学習で培ってきた、社会的な見方・考え方を働かせて現代社会の様々な諸課題を追究したり解決したりする学習活動を通して、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者に必要な公民的な資質・能力を育成する教科として新設された。

1. 我が国の「公共」を巡る諸課題——危機に瀕する民主主義

(1)これでいいのか「表現の自由」

令和6（2024）年7月に行われた東京都知事選挙において、公職選挙法に基づく選挙ポスター掲示板に、選挙とは無関係のポスターが多数張り出される事件があった。同年4月に行われた衆議院議員選挙の東京15区の補欠選挙でも、悪質な選挙妨害と思われる事案が多数発生した。いずれも、当事者は警察などの事情聴取に対して「表現の自由」を主張したとの報道がなされた。

民主主義の根幹を支える憲法が保障する「表現の自由」は尊重されるべきものであるが、選挙におけるこれらの事案は、明らかに健全な民主主義が脅かされていると言わざるを得ない。

既に、令和4（2022）年に当時のヘイトスピーチを巡る訴訟での最高裁判決で、憲法第21条が保障する表現の自由については、「民主主義社会を基礎付ける権利であるが、無制限に保障されるものではなく、公共の福祉による合理的でやむを得ない程度の制限を受ける」との判断が示されている。

(2)憲法の想定する民主主義と自由

以上の事案を踏まえ、昭和22（1947）年に施行された日本国憲法のいくつかの条文に、国民の権利及び義務が示されているので改めて読んでみたい。

第11条には「基本的人権の享有」が示され、第12条、第13条には、「自由・権利の保持の責任とその濫用の禁止、個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉」などの言葉が示されている。社会科教師は「公共の福祉」の意味するところをしっかりと留意して指

導にあたる必要がありそうである。

これらの意義について、当時の文部省著作の中学・高校生向けの書籍『民主主義』には、「民主主義は、社会の秩序および公共の福祉と両立する限り個人にできるだけ多くの自由を認める。……それをもって気ままと混同するのは、たいへんなまちがひ」と指摘。その上で、「自由を、社会公共の福祉のために最もよく活用するという心構えがなければ……」と示している。

今日の我が国の抱える諸課題の一つである民主主義の危機は、今回新設された「公共」の教科の学習内容で求めている、

- (1)公共的な空間を作る私たち
- (2)公共的な空間における人間としての在り方生き方
- (3)公共的な空間における基本的原理

とも通底するものであろう。

「自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して」社会の形成に参画する私たちを育てる教科としての新設教科「公共」を改めて眺めてみたいと思う。

2. 「公共」とは——6つの視点で覗いてみよう

高等学校学習指導要領が平成30年に告示され、公民編では単位取得の内容が次の様に改訂がなされた。

(1)カリキュラム変更の視点

前述したように、選挙権年齢や成年年齢が共に18歳になるなど、高校生を取り巻く社会環境に大きな変化が訪れている。さらに、急激に少子高齢化が続き、これまで引き継がれてきた地域の伝統や文化、地域社会の集団的まとまりとも言える祭礼や地域の伝統的行事の維持継承が難しいなどの今日的諸課題が生まれつつある。

そのような社会の急激な変化の中で、自分自身を社会の中でどのように位置づけ、社会の変化を〈自分事〉として捉えて、主体的に考え行動していくような資質、能力の育成が求められているのである。

そのような中で、小学校社会科・中学校の地理・歴史・公民的分野などで学んだ資質・能力を生かして自己と社会との関わりを踏まえ、他者と協働して、より良い社会の形成に向けて、社会参画することなどを考察する科目として創設されたのが「公共」である。「公共」は2単位であり、年間授業時数は70時間である。ちなみに中学校の公民的分野の授業時

間は100時間である。

「公共」の単位配分は以下の通りである。

教科書	科目	単位
公民	◎公共……………必修	2
	倫理……………選択	2
	政治・経済……選択	2

※「公共」は、入学年次及び2年次までに全生徒に履修させることと示されている。

(2)「公共」での学びの視点——諸課題の解決に向けた能力の育成

「公共」の新設について、その理由を学習指導要領では目標の中で、次のように示している。

- ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論についての理解を深める。
- ②諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を育てる。
- ③現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。
- ④公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力を養う。
- ⑤合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを論議する力を養う。
- ⑥よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
- ⑦多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を持つ。
- ⑧公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

これら、人間と社会の在り方についての見方・考え方で着目する視点として「幸福、正義、公正」というキーワードが示されている。

現行の中学校の公民的分野での「対立と合意」、「効率と校正」などと対比し、「公共」の学習の特性を表していると思われる。

公民的分野 年間指導計画・観点別評価規準表

※総時間数を94時間で構成しました。予備時間の6時間分は学校や生徒の実態に即して弾力的に活用ください。

※指導計画については、学校の事情に合わせて柔軟に対応してください。

学期	前後期	累計時間	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	学習目標	評価規準の例
1学期	前期	1	巻頭①～1、8	持続可能な開発目標 (SDGs) /なぜ「公民」を学ぶのか/「公民」について ◎持続可能な開発目標 (SDGs) について理解するとともに、「公民」を学習する目的を考えてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会の形成について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。 ●過去と未来の接点、家族から国際社会へと続く社会の中心に、自分=私が存在するというを読みとらせる。 ●「公民」という言葉の概念について理解を深め、学習への意欲を高めさせる。 	● 思考 自分がどのように公民の学習に取り組むか表現することができる。
1学期	前期			<h3>第1章 私たちの生活と現代社会</h3> <p>第1章の課題 現代日本の社会にはどのような特色が見られるのでしょうか。</p> <p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次のような知識を身に付ける。(ア) 現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解する。(イ) 現代社会における文化の意義や影響について理解する。(ウ) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解する。(エ) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解する。 ●次のような思考力、判断力、表現力等を身に付ける。(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現する。(イ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現する。(ウ) 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現する。 <p>評価規準の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知識 現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。 ●知識 現代社会における文化の意義や影響について理解している。 ●知識 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解している。 ●知識 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解している。 ●思考 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ●思考 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ●思考 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通した個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現している。 ●態度 現代日本の社会の特色について、より良い社会の実現を視野に、課題を主体的に追究しようとしている。 		

学期	前後期	累計時間	教科書ページ	項目 (◎学習課題)	学習目標	評価規準の例
1学期	前期	2	10～11	現代社会の入り口 ◎現代日本の社会には、どのような特色が見られるのでしょうか。また伝統や文化は私たちの生活とどのように関わっているのでしょうか。	●第1章の課題の方向性をつかむことができる。	● 思考 現代日本の社会の主な特色について、考えて表現している。
1学期	前期			<h3>第1節 私から見える現代の日本社会</h3> <p>第1節の課題 私たちが生きる現代社会にはどんな特色があるのでしょうか。</p> <p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について理解する。 ●少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現できる。 <p>評価規準の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ●知識 現代社会の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について理解している。 ●思考 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ●態度 私たちが生きる現代社会の特色について、章の問いと関連付けながら、節の問いを主体的に追究しようとしている。 		
1学期	前期	3	12～13	①世界とかがわる私 ◎グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第1節の課題の方向性をつかむことができる。 ●グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化しているのかを考察し、表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●知識 グローバル化とはどのようなことか理解している。 ●思考 グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくかを考えて、表現している。
1学期	前期	4	14～15	②情報から知る現代と未来 ◎情報化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。	●情報化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのかを考察し、表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> ●知識 情報化とはどのようなことか理解している。 ●思考 情報化によって、私たちの生活や社会は、今後どのように変化していくかを考えて、表現している。
1学期	前期	-	16～17	<p>学習を深めよう 防災・減災と情報通信技術 (ICT)</p> <p>◎防災や減災に、情報通信技術 (ICT) はどのように活用されているのでしょうか。</p>	●防災や減災に、情報技術 (ICT) はどのように活用されているのかを理解し、考察することができる。	● 思考 自分の住んでいる地域が取り組んでいる、ICTを活用した防災対策を調べて、表現している。

指導展開編の使い方

学習目標と評価規準の例

本時の「学習目標」と「評価規準の例」を示しています。

●**評価規準の記号**

知識…知能・技術
思考…思考・判断・表現
態度…主体的に学習に取り組む態度

課題

本時の学習課題を示しています。

展開例

[導入][展開][まとめ]の3段階で、「学習内容・学習活動」と「指導上の留意点」を示しています。

第1節の課題 私たちが生きる現代社会にはどんな特色があるのでしょうか。 **本時の位置** ①②③
3時間目/100時間
教科書 P.12~13

1 世界とかかわる私

学習目標	評価規準の例
<ul style="list-style-type: none"> ●第1節の課題の方向性をつかむことができる。 ●グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化しているのかを考察し、表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●知識 グローバル化とはどのようなことか理解している。 ●思考 グローバル化によって、私たちの生活や社会は、今後どのように変化していくかを考えて、表現している。

展開例	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	○世界で活躍する日本人、日本で活躍する外国人を挙げ、世界とのつながりをイメージする。 ・資料①・②を参考に考える。	● 【解答例】 ・世界で活躍する日本人：大谷選手（MLB）、三苫選手（プレミアリーグ）、是枝裕和（映画監督） ・日本で活躍する外国人：厚切りジェイソン（お笑い）、豊昇龍（相撲）
課題	グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。	
展開	○グローバル化とはどのようなことか、理解する。 ・本文「グローバル化とは」を読み、該当箇所に線を引く。 ○資料活用資料③を読み取り、外国人旅行者に私たちができることを交流する。 ○グローバル化のメリットについて、考察する。 ・本文「国際分業と国際競争」を読み、グループで交流する。 ○グローバル化の課題について、考察する。 ・本文「グローバル化の課題」を読み、資料④・⑤を読み取り、グループで交流する。 ○グローバル化した社会を生きる上で大切なことについて考察する。 ・本文「国際協力と国家存立」を読み、グループで交流する。 ○資料活用 グローバル化の時代に必要な資質・能力を理解し、身に付けるためにどうしたらよいかをグループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ●【線を引く箇所】 ・モノ（財）・ヒト・カネ・情報などが国境を越えて世界規模に広がり、さまざまな影響をおよぼすこと。 ●資料②・③・⑤を示し、グローバル化が進展していることに気付かせる。 ●【解答例】 ・通訳をする。 ・道案内をする。 ●【解答例】 ・国際分業により良い製品が安く手に入る。 ・産業や技術が発展する。 ●【解答例】 ・食料自給率が低下する。 ・本国だけでは解決できない国際的な課題（経済危機・感染症・環境問題など）が増加する。 ●【解答例】 ・自国の文化を大切にしつつ、他国も尊重する。 ・各国が協力して課題を解決する。 ●グローバル化の時代に必要な資質・能力の一例として資料④を示す。 ●【解答例】 ・様々なことに挑戦する。 ・留学する。 ・英語の授業を頑張る。
まとめ	○課題について自分の考えをまとめる。	● 確認、探究 を用いて要点を押さえたうえで学習課題についてまとめる時間を作る。

本時の要点

課題：グローバル化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。

1 グローバル化とは
・モノ（財）・ヒト・カネ・情報などが国境を越えて世界規模に広がり、さまざまな影響をおよぼすこと。

2 グローバル化のメリット
・国際分業が行われ、貿易の自由化が進み、より良い製品が安く手に入るようになった。

3 グローバル化の課題
・食料自給率の低下。
・本国のみで解決が困難な国際的な課題の増加。
例) 経済危機、感染症、環境問題

〈グローバル化の時代に必要な資質・能力〉
・語学力やコミュニケーション能力。
・主体性やチャレンジ精神。
・異文化理解と日本人としてのアイデンティティ。

資料解説

1 世界文化遺産サグラダ・ファミリア…
サグラダ・ファミリアはスペインを代表する建築物で、建築家ガウディの未完作品である。外尾さんは30年以上にわたりこの建物の彫刻を担当し、現在は主任彫刻家として活躍。2005年に外尾さんの彫刻も含めてユネスコの世界遺産に登録された。

2 海外で暮らす日本人の数の推移
1990年の約62万人から、2022年の約130万人と、およそ2.1倍に増加している。地域別の推移では、北米が最も多いが、アジアの経済発展と日本企業のアジア進出にともない、中国を中心としたアジアの伸びが特に目立っている。

3 日本で暮らす外国人の数の推移
1990年の約108万人から、2023年の約341万人と、およそ3.1倍に増加している。国籍別では、中国、フィリピン、ベトナムといったアジア諸国の伸びが顕著である。背景の一つに、日本政府が留学生や技能実習生の受け入れを推進していることがある。

4 日本で漫画を出版した北欧女子…
スウェーデン出身のオーサさんは、幼少の頃に日本とアニメや漫画の影響を受けて、2011年に東京へ移住。日本と外国との文化の違いや、日本に対する愛情を四コママンガで表現し、ブログで発信している。

5 訪日外国人旅行者数と…
2003年に日本政府は、ビジット・ジャパン・キャンペーンを立ち上げ、観光立国を目指すことを掲げた。これを受けて訪日外国人数は大きく伸長したが、新型コロナウイルスの感染症の拡大によって、大きく減少した。2023年現在、政府は、2030年の訪日外国人数を6000万人とする目標を掲げている。

6 外国人旅行者が訪日中に困ったこと
訪日外国人数6000万人という目標を達成するために、観光庁は、外国人の受け入れ環境整備などを挙げている。例えば、多言語への対応、フリーWi-Fiの整備、洋式トイレの準備、多言語への対応などがある。

7 グローバル化の時代に必要な資質・能力の例
グローバル化の時代に求められる人材の例として、文部科学省「グローバル人材の育成」から、語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティを挙げた。この他にも、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと（異質な者の集団をまとめる）リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等が挙げられている。

8 日本の食料自給率の推移（カロリーベース）
食料自給率は、米の消費が減少する一方で、畜産物などの消費が増大するといった食生活の変化により、低下傾向であったが、2000年代に入ってから概ね横ばいで推移している。日本政府は、2030年度に、カロリーベースで45%を目標としている。

9 世界金融危機（2008年）
1930年代に発生した世界恐慌以来の100年に1度の経済危機といわれ、日本の経済成長も戦後最悪を記録した。日比谷公園に年越し派遣村が開設されるなど「派遣切り」が社会問題となった。

確認 解答例 モノ（財）・ヒト・カネ・情報などが国境を越えて世界規模に広がり、さまざまな影響をおよぼすこと。

探究 解答例 日本に住む外国人が増え、産業や文化がより発展していく。一方で、本国だけでは解決が難しい国際的な課題も増えていくと考えられる。

本時の要点

本時の学習内容の要点をまとめました。板書例としても活用できます。

資料解説

教科書に掲載の資料（画像、表、グラフ、図）やコラム（「学習を深めよう」「やってみよう」）について、詳しく解説しています。

【確認】【探究】の解答例

本時の学習のまとめになる「確認」と「探究」の解答例を示しています。

※なお、本書では文献の引用に際し、紙幅の都合上、一部省略して引用している場合があります。また、文献名の前に「参考」と記載されたものについては、中学生にも理解しやすいよう、引用元の文章の要旨をまとめるなど、一部改変を施している場合があります。

2 情報から知る現代と未来

学習目標	評価規準の例
●情報化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのかを考察し、表現できる。	● 知識 情報化とはどのようなことか理解している。 ● 思考 情報化によって、私たちの生活や社会は、今後どのように変化していくかを考えて、表現している。

展開例	学習内容・学習活動	指導上の留意点
導入	○自分や家族が利用しているサブスクリプション・サービスを挙げる。 ・資料1を参考に考える。 ○サブスクリプション・サービスは、なぜ普及(流行)したのかを考える。	●ペアやグループで交流する。 ●【解答例】 ・アマゾンプライム(動画)・Spotify(音楽) ・楽天マガジン(雑誌) ●【解答例】 ・ネットやスマホの普及・料金が安くなった。
課題	情報化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。	

展開	○情報化とはどのようなことか、理解する。 ・本文「情報化とは」を読み、該当箇所に線を引く。 ○情報化のメリットについて、考察する。 ・本文「第四次産業革命の到来」「情報化と防災」を読み、グループで交流する。 ○資料活用資料4を読み取り、①シェアリングエコノミーの利点、②どのようなシェアリングエコノミーがあったら便利かを交流する。 ○情報社会の課題について、考察する。 ・本文「情報社会の課題」を読み、資料5・6を読み取り、グループで交流する。 ○情報リテラシーを身に付けることの重要性に気づく。	●【線を引く箇所】 ・情報通信技術(ICT)の発達によって、情報が人々の間を飛び交い、行動に大きな影響をあたえ、情報そのものが価値をもつこと。 ●資料2・3を示し、情報化が進展していることに気付かせる。 ●【解答例】 ・情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)が様々な分野に活用され、生活が便利になったり、防災に役立ったりしている。 ●【解答例】 ①安く使用できる・無駄がなくなる・所有する資源を活用できる機会が増える。 ②民泊・カーシェアリング・スキルシェアリング。 ●【解答例】 ・サイバー犯罪の増加・個人情報の漏洩。 ・ネットを使った嫌がらせの増加。 ・例として、複数のメディアを利用したり、批判的に情報をみたりすることなどを挙げる。
----	---	---

まとめ	○課題について自分の考えをまとめる。	●確認、探究を用いて要点を押さえたうえで学習課題についてまとめる時間を作る。
-----	--------------------	--

本時の要点

課題：情報化によって、私たちの生活や社会はどのように変化していくのでしょうか。

- 1 情報化とは
 - ・情報通信技術(ICT)の発達によって、情報が人々の間を飛び交い、行動に大きな影響をあたえ、情報そのものが価値をもつこと。
- 2 情報化のメリット
 - ・情報通信技術(ICT)や人工知能(AI)が様々な分野に活用され、生活が便利になったり、防災に役立ったりしている。

- 3 情報化の課題
 - ・サイバー犯罪の増加。
 - ・個人情報の漏洩。
 - ・ネットを使った嫌がらせの増加。

→情報リテラシーを身に付けることが重要。

資料解説

1 サブスクリプション・サービス

サブスクリプションとは、英語では「定期購読」「予約購読」などを意味し、サブスクと略することもある。サブスクリプション・サービスの市場規模は、民間調査会社によると2022年度に1兆円を超え、今後も拡大していくと予想されている。このような拡大の背景には、若い世代を中心にモノの所有欲が減っていることや、所有することからサービスや体験を得ることに人々の価値観が変わってきていることなどがある。動画・音楽・雑誌の配信などが中心であるが、ソフトウェア(例:Microsoft 365)、洋服レンタル(例:メチャカリ)、おもちゃレンタル(例:トイサブ!)、家具家電のレンタル(例:air room)など、様々なジャンルに拡大している。

2 AIを活用した対話型のロボットコンシェルジュ

AIを活用したロボットは、様々な場面で活用されている。例えば、生徒に身近な例では、犬型家庭ロボ(例:aibo)、ファミリーレストランの配膳ロボット(例:すかいらーくグループ)などが挙げられる。

3 人工知能(AI)の防災分野への活用

内閣府によれば、「人工衛星、地上の気象レーダー、ドローンによる被災地観測、建物センサーからの被害情報、車からの道路の被害情報といった様々な情報を含むビッグデータをAIで解析する」ことで、「被害状況を踏まえ、個人のスマホ等を通じて一人一人へ避難情報が提供され、安全に避難所まで移動すること」「アシストスーツや救助ロボットにより被災者の早急な発見と被災した建物からの迅速な救助」

「ドローンや自動配送車などによる救援物資の最適配送を行うこと」ができるようになり、「被害の軽減や早期復興を図ることが可能」となる。

4 シェアリングエコノミーのしくみ

シェアリングエコノミーは、内閣府によれば、①民泊や駐車場、会議室といった「空間のシェア」、②普段使わないものや不要となったものを貸借・販売する「モノのシェア」、③家事代行やベビーシッターなどの「スキルのシェア」、④カーシェアやシェアサイクルなどの「移動のシェア」、⑤クラウドファンディングなどの「お金のシェア」の5つのサービスに分類される。

5 サイバー犯罪の検挙件数

サイバー犯罪の目的は、金銭を奪うことである。その他、政治的もしくは個人的な怨恨などから政府や企業に不利益をもたらすことや、愉快犯を目的として行われるケースなどもある。

6 全国の小学校～高等学校でのパソコンや…

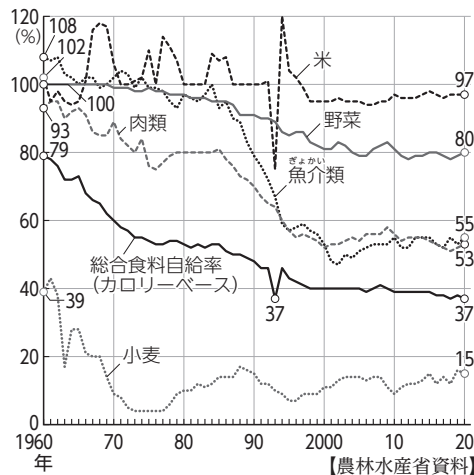
平成28年度の内閣府調査によると、「スマートフォン」の利用を学校種別にみると、小学生が40.2%、中学生が74.0%となり、高校生になると98.5%が利用している。このようなICT機器の普及が生活を便利にする一方で、ネット上のいじめが問題となっている。このようないじめに対して、文部科学省は「被害が短期間で極めて深刻なものとなる」「子どもが簡単に被害者にも加害者にもなってしまう」「実態を把握し効果的な対策を講じることが困難であること」などの点を主に指摘している。

確認 情報通信技術(ICT)の発達によって、情報が人々の間を飛び交い、行動に大きな影響をあたえ、情報そのものが価値をもつこと。

探究 人工知能(AI)などの活用によって、私たちの生活が便利になったり、災害の被害を減らしたりできるようになる。一方で、サイバーテロなどの新たな課題も増えていくと考えられる。

1 次のグラフは日本の食料自給率の推移を示している。これを見て、次の各問いに答えなさい。

- グラフから読み取れることとして適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。
 - ア 米の自給率は、1960年から2020年まで95%以上を保ち続けている。
 - イ 肉類の自給率は、2000年以前の期間は魚介類よりも高くなっていた。
 - ウ 小麦の自給率は、1969年以降、20%を上回った年が1年もない。
 - エ 総合食料自給率は、2020年に食料の約4割を輸入でまかなっていることを示している。
- 日本の食料自給率の低下は、海外からの食料輸入の増加を意味している。これについて、Aさんは次のような意見を発表した。これを読んで、あとの各問いに答えなさい。



Aさん：交通・通信が高度に発達した現代世界では、人やものが活発に行き交い、世界各国の結びつきはより緊密になっています。このような□化のもとでは、何が何でも自国でものを生産するというのは古い考え方です。国際分業という言葉もあります。世界各地で安くつくられたものを効率的に使えば、それだけ日本国民の利益にもなると思います。

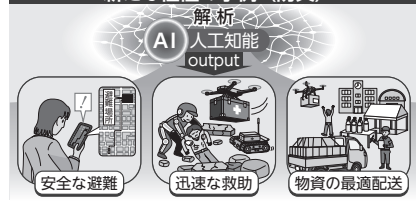
- 文中の□にあてはまる語句を、カタカナ5字で書きなさい。
- あなたがAさんの意見に対して、反対意見を述べるならどうなるか。相手国の農業事情や政治事情を考えて具体的に書きなさい。
- 複数の国にまたがって工場や研究機関などをもつ企業のことを何というか、書きなさい。
- 環境、開発、人権など諸分野で活動する非政府組織をアルファベットで何というか、3字で書きなさい。

2 次の各問いに答えなさい。

- 次の文中の()にあてはまる語句を書きなさい。
 - ① AIの導入・普及には、インターネットに代表される情報通信技術()の発達が必要不可欠である。
 - ② インターネットの利用によって、自分を危険にさらしたり、他者を害したりしないための考え方やルールを()という。
- 右の写真はAIを活用した対話型のロボットコンシェルジュ、下の資料は人工知能(AI)の防災分野への活用を示した事例である。この写真と資料をもとに、3人の中学生が話し合った。資料や写真を正しく読み取っていると考えられる人の組み合わせを、あとのア～エから一つ選び、記号を書きなさい。



新たな価値の事例 (防災)



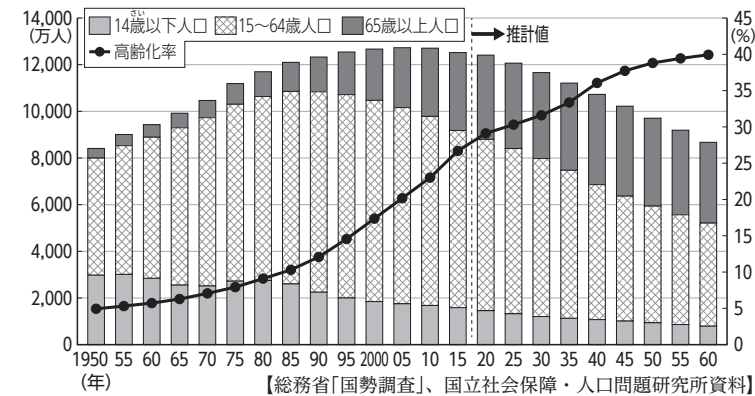
【内閣府ホームページを加工して掲載】

Aさん：AIの発達によって、避難情報を提供したり、ドローンによる配送や救助もできるね。
 Bさん：いろいろな場面でAIが活躍しているけれど、判断は人間がするので人の仕事は減らないんだね。
 Cさん：AIを活用したロボットも、災害の際に救助や外国の方が困っているときに多言語で案内ができると思うよ。

- ア AさんとBさん イ BさんとCさん
- ウ AさんとCさん エ AさんとBさんとCさん

3 次の各問いに答えなさい。

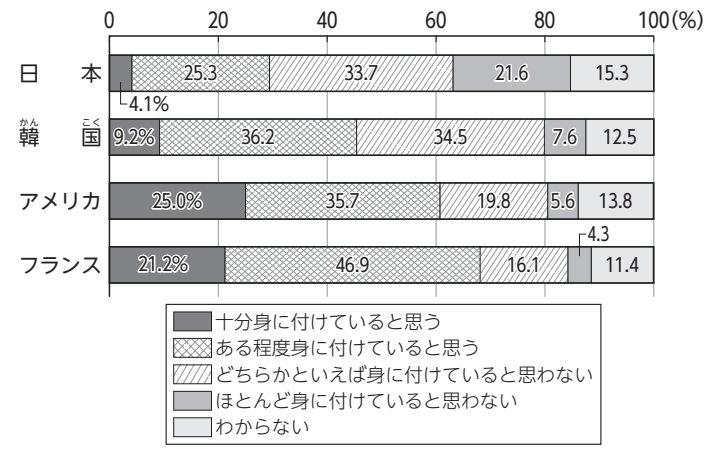
- 右の図は年齢別人口の推移と将来推計、高齢化率を示している。このように、15歳未満の人口割合が低く、65歳以上の人口割合が高い社会を何というか、書きなさい。
- (1)の社会が進んでいくと生じると考えられることがらを次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。
 - ア 労働力人口が減って、失業者が増える。
 - イ 未婚化や晩婚化が進む。
 - ウ 個人消費が伸び悩むようになる。
 - エ 国の人口全体が増え、人口爆発が起こる。
- 少子化対策として適切でないものを、次のア～エから一つ選び、記号を書きなさい。
 - ア 介護サービスの充実 イ 結婚や出産に対する意識改革
 - ウ 育児休暇を取りやすくする エ 保育園を増やす
- 次の法律は、どのような目的で制定されたか。あとのア～オからそれぞれ一つ選び、記号を書きなさい。



- ① 育児・介護休業法
- ② 高齢者雇用安定法
 - ア 男女の雇用機会を均等にし、男女の待遇の格差を解消するため。
 - イ 高齢者の雇用の仕組みを整えて、高齢者が働きやすくするため。
 - ウ 文化財を保存、活用する仕組みを示し、国民の文化的向上を図るため。
 - エ 労働者が育児や介護と仕事を両立しやすくするため。
 - オ 個人を特定する情報を保護し、適切に活用されるようにするため。

4 次の各問いに答えなさい。

- 次の文中の()にあてはまる語句を書きなさい。
 - ① 天然資源が比較的少ない日本は「()創造立国」をめざしている。
 - ② 日本は()から仏教や儒教などの文化を選びながら受け入れ、自分たちの求めるものにつくり変えてきた。
 - ③ 日本では、伝統文化として節分や七五三などの()が現代にも受け継がれている。
 - ④ それぞれの文化には特有の部分がある。このことを文化の()性という。
 - ⑤ 多くの外国人が暮らすようになった日本では、()社会が形成されつつある。
- 右の資料は、異文化理解力・対応力の国際比較である。日本の異文化理解力・対応力を上げるには、どのような取り組みが必要と考えられるか。「異文化」という語句を使って、簡潔に書きなさい。
- 伝統行事は、少子化や過疎化によって、どのような課題を抱えているか。「担い手」「子ども」という語句を使って簡潔に書きなさい。



【内閣府「子供・若者白書」令和元年版】